



れんげそう

令和7年2月28日
福生第五小学校
学校通信第571号

一年間ありがとうございました

校長 泉田 巧人

春弥生、三寒四温(さんかんしおん)という言葉もありますが日に日に暖かくなってまいりました。早いもので令和6年度も残すところあと一か月です。次年度に向けてこの一か月を大切にしていきたいと思います。2月8日(土)の展覧会は、大勢の方々に御覧いただきありがとうございました。子どもたちの豊かな感性で作られた作品は、どれも迫力があり心を打たれました。すてきな作品を作ってくれた子どもたちに心からありがとうと言いたいです。



雛人形飾り
GCS(五小コミュニティ・スクール)より

さて、今年度の学校のテーマは、やさしい学校づくりでした。日々、子どもたちに「やさしさ」とは何かを投げかけて考えさせてきました。多くの子どもは、様々な場面で考えて行動する姿が見られていました。また、教員も「自らすすんで学習に粘り強く取り組む児童の育成」を主題に校内研究を行い、子どもたちに分かりやすいやさしい授業を目指して授業改善に取り組んでまいりました。今後も、全ての子どもたちが、授業が楽しいと思えるように教職員一同取り組んでまいります。

保護者の皆様方には今年度一年間、様々な教育活動に御理解と御協力をいただき、学校を支えてくださりありがとうございました。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

ペアレントトレーニング

ペアレントトレーニングは、「好ましい行動」を増やして、「好ましくない行動」を減らしていくという考えです。子どもの「好ましくない行動」にだけ注目し、叱責するだけでは行動改善にはいたりません。子どもの良いところに目を向けて伸ばしてあげることがとても大切な視点です。子どもにより効果に違いはありますが、ペアレントトレーニングを行うことで、子どもの「好ましくない行動」は改善され、大人との信頼関係も高まります。また、「好ましい行動」を褒めることで、子どもの自己肯定感も上がります。

例えば、静かにしていなければならぬ場面で騒いでしまう子どもがいます。まず、大人はその子どもと一緒に「してほしい行動」と「してほしくない行動」を決めます。この場面において、「してほしい行動」は「静かにすること」で、「してほしくない行動」は「騒ぐこと」です。ペアレントトレーニングでは次のような対応方法をとります。

- A: 児童が、好ましい行動をした時にはすぐに褒める。
- B: 児童が、好ましくない行動をしたときは無視する。
- C: 児童が、自傷や他害という「許されない」行動をした時には制止する。

この根底には、子どもは大人に注目されたいとの欲求をもつという考え方があります。その上で、好ましい行動に「注目と称賛」で強化し、好ましくない行動には意図的・計画的に「無視」をすることで、消去するという行動療法の原理に則っています。好ましくない行動を無視することは、簡単ではありませんが、叱られることで一時的にでも自分に注目してもらえたという体験になり、好ましくない行動を増やしてしまうことにつながります。好ましくない行動を無視して注目を外すことは、好ましい行動を褒めて定着させる準備の意味もあります。これはすぐに効果が出るものではなく、積み重ねていくうちに効果が出てくるものなので、根気よく続けていくことが必要です。

学校での例を紹介します。授業中に立ってしまう児童がいたら、「座るよ。」と正しい行動を促します。促して座れたら「座れたね。」と即座に褒めます。また、行動を起こそうとしている時にも「いいね。座ろうとしているね。」などと褒めます。自分で座っている時には「座っているね。」と褒める言葉掛けをします。座ることが当たり前と思っていると、座った時に褒める言葉を掛けずにいてしまいます。そうではなく、どんな時にも評価して褒める言葉掛けをするよう心掛けています。

好ましい行動に肯定的な注目(褒める・気付く・感謝する・励ます)を与えて積み重ねると、好ましい行動が強化され、相対的に好ましくない行動が減っていきます。一方、好ましくない行動に否定的な注目(制止・注意・叱る・嫌み)を与えて積み重ねると、好ましくない行動が強化され、相対的に好ましい行動が減っていきます。ぜひ、参考に見てみてください。